

国分寺崖線きしべの路を歩く



先月号でご紹介したガイドブックの中で特に気になっていたのが「崖」というガイドブック。国分寺崖線発見マップと題され、基本的な説明から小ネタまで国分寺崖線についての詳しい解説が掲載されています。詳細は実際に手に入れて読んでいただくのが1番なのでここでは詳しく書きませんが、是非お読みください。「へえ～ほお～」の連続です。今月はマップの中に掲載されている国分寺崖線を満喫できる2コース「おもいはせの路」と「きしべの路」から「きしべの路」を実際に歩いてみたレポートです。おすすめルートは総距離 8.7kmとありますが、寄り道しちゃうので約 10kmの行程です。足に自信の無い方は2回に分けた方が良いでしょう。でも、とにかく気持ちのいい世田谷の自然を満喫できるコースでした。



成城学園前の
銀杏並木



成城学園前駅を出発し素晴らしい銀杏並木を行くと「成城五丁目猪俣庭園」があります。(財) 労務行政研究所理事長を務めた故猪俣猛氏が昭和 42 年に建てた武家屋敷風の数寄屋造りの邸宅です。回遊式の庭園の見事さもさることながら家の造りも一見の価値有り。様々な意匠が凝らされています。ほっと心が落ち着く癒しスポットです。



明治10年に多摩川に流れ着いたお不動様をお祀りする「喜多見不動堂」には神社もあります。



洞窟内にも不動明王がお祀りされていました



「神明の森みつ池」では、23 区では珍しい自生のゲンジボタルをはじめ、クワガタ・カナブン・コゲラなどのたくさんの動物やハンノキやセキシヨウなどの植物が見られます。普段は自然保護のため柵がありそばまで行けません。年数回観察会があります。実は池はちっちゃいです。



「きたみふれあい広場」は、小田急線の電車車庫の上にある人工地盤の公園。地上 10m の高さにあるため見晴らしも最高です。



崖線に建つ家屋。確かに高くなっているのがわかります。



君は誰？



昔はこんな道が多かった



咲く準備中の紫陽花



橋の道標

* いろはに乃サッチ#46「せ」 * ～背に腹は代えられぬ～

「せ」は、江戸では「背に腹は代えられぬ」これは、大事なことのためには、他のことを犠牲にするのはやむを得ないというたとえ。京では「梅檀は二葉より芳し」これは、梅檀は香木であり、双葉のときから非常によい芳香を放つことから、すぐれた人物は幼少時代から他を逸したものを持っているということ。大阪は「背戸の馬も相口」これは、裏口につないでおくしかない暴れ馬でも、扱い方によってはおとなしくなること。手のつけられない者にも、頭の上がない人や気の合う友人はいることのたとえ。なるほどね～。



野川に集まる生き物たち

